

いつまでも元気であつてね。

福田 大和

いいが。いいが。と言うのは、ぼくのばあ
 ちゃん。ジュースをこぼした時、もい
 ちゃん。におこられてしよんぼりした時
 にも。おは、いつもぼくたちをにこりと
 笑って見守ってくれます。ばあちゃん
 は、春夏秋冬一年中、かんばつて働いて
 います。いちごを作った、いちご、半年
 なら、作り半年しかうかんごです。い
 そがしい間は、一日も休みが

ありません。そんなばあちゃん、今年
 七十一さいです。そんなにかんばらな
 くてもいいのに。思つて聞いてみま
 した。「なんぞそんなかんばると？」
 「そしたら、ばあちゃん、
 「あんな達と遊びに行かんといかん
 がねー」と言いました。たまにぼく
 たち家族を色んな所に連れて行っ
 てくれます。そんなばあちゃん、
 さんが大好きです。だけど、心配な
 ことがあります。たまに、背中が痛
 いとか、足がつかないとか。

言います。少しは、しつかり休んでほしいな。
 ぼくは、ばあちゃんがいっつも言ういいが、
 いいが。の言葉が好きです。だけど、おこら
 れないわけいありません。悪い事が許さな
 ない事をしたら、おこります。おこるとこわ
 いです。それどもばあちゃんが好きです。そ
 しと、いっつも優しいばあちゃんであらう。
 いいが、いいが。を聞かんといかんから、ず
 と元気であつとよ、ばあちゃん。
 今日も、聞けるかなーいいが、いいが。